

白井市第5次総合計画後期基本計画（素案）に対する パブリックコメントの結果について

白井市第5次総合計画後期基本計画（素案）について、市民の方々に意見を募集したところ、下記のとおり、御意見をいただきました。

いただいた御意見とこれに対する市の考え方について、次のとおり取りまとめましたので、公表いたします。

案 件	白井市第5次総合計画後期基本計画（素案）		
募 集 期 間	令和2年7月1日（水）～令和2年7月15日（水）15日間		
意 見 件 数 （意見書提出者数）	20件（6名）		
意見の取扱い	修 正	素案を修正するもの	0件
	既記載	既に素案に盛り込んでいるもの	0件
	参 考	素案には反映できないが今後の参考とするもの	10件
	その他	素案には反映できないが意見として伺ったもの	10件

※意見の内容を要約して記載しているものがあります。

【1 後期基本計画 全般に関する意見】

No.	市民意見	件数	意見に対する市の考え方
1	<p>前期と後期の市民要求アンケート結果 重点改善分野と改善分野は、ほとんど変わらず、特に北総鉄道問題はダントツに重点改善分野だった。</p> <p>しかし、後期で重点改善分野に「地球温暖化防止対策」が上がったところは、時代を反映し待ったなしの状況に来ていると思う。白井市第2次環境基本計画にも掲げられている。</p> <p>資料3のP.7や資料4のP.4にあるように、住民に負担を課す事や、職員抑制、業務外注化、学校補助職員等削減で、財政的にどれだけ効果が上がるのか。今までもさんざんやってきて効果があまり見えなかったのではないか。</p> <p>私は、反対である。</p>	1	<p>第5次総合計画では、まちづくりの進め方の一つに「持続可能な行財政運営」を掲げ、人口減少や高齢化の進展により財政状況が厳しくなることが見込まれる中、限りある資源を有効に活用し、必要なサービスを継続的に提供していくこととしています。</p> <p>さらに、市民の行政サービスに対するニーズは多様化しており、限られた資源で新たな行政需要に柔軟に対応するためには、事業の見直しや統廃合などによる歳入の確保を進めることはもちろんのことですが、民間に委ねた方が市民の利便性の向上や費用対効果が期待できる分野については、積極的に民間委託を推進することにより、職員が行うべき業務の充実を図りながら、全体の職員数のスリム化を進めることが重要です。</p> <p>なお、これらの取組の中で、市民に負担を求めるものについては、その必要性をしっかりと説明し、理解を得ながら進めてまいります。</p> <p style="text-align: right;">【その他】</p>

No.	市民意見	件数	意見に対する市の考え方
2	<p>「白井」をアピール出来る突飛な施策 経済発展に伴い、どこのまちも一定水準の利便性や公共性が維持されているが、反面どこも同じようなまちになっており、「ここできゃ」という感情を抱かせるようなまちはそう多くはない。逆に言えば、そのような感情を抱かせられれば、定住する人も訪問する人も増やせる。そのためにはやはり他ではやっていない「白井ならでは」というものを作る必要がある。</p> <p>これは一つのアイデアだが、「しろいまち」を作ってはどうか。「しろいまち」とはまちのあらゆるものを白く(white)にしてしまう事。例えば公共施設や商業施設の看板、住宅を白で統一する事で綺麗な景観を作り出す。栃木的那須街道でも看板を茶色で統一されて、品のある街並みとなっている。ギリシャとまではいかないまでも、綺麗な街並みになれば住みたいという人も増えるだろうし、見を訪れる人も増えるのではないかと思う。住宅の塗り替えの補助金などを出せば対応してくれる人もそれなりに出るだろうし、地元の工務店の仕事を増やす事にも繋がると思う。</p>	1	<p>市では、平成28年に「シティプロモーション基本方針」を策定し、「しろいまち しまりのまち」をキャッチフレーズとして、住環境、子育て環境、交通アクセス環境の魅力をPRしているところです。</p> <p>このキャッチフレーズは、「白」の持つ何色にも染まっていない、自分らしい生活(=好きな色)が描けるというコンセプトを表現したものです。</p> <p>いただいた御意見は、個人の財産等に対する規制を伴うものであり、実施は考えておりませんが、今後のシティプロモーション等に関する貴重な御意見として承ります。</p> <p style="text-align: right;">【その他】</p>

【2 後期基本計画 戦略1若い世代定住プロジェクトに関する意見】

No.	市民意見	件数	意見に対する市の考え方
3	<p>コロナ禍の備えは、市ではほとんどなかったように思う。過去に新型コロナ(サーズ、マーズ)、新型インフルエンザ等、感染対策の備えの重要性が言われていた。マスクや消毒液の備蓄である。</p> <p>コロナから子どもを守るためにも、学校内での3密対策をやってほしい。そのためには少人数学級である。補助教員を削減している場合ではない。</p> <p>教室も必要である。学校誘致も視野に入れるべきである。</p>	1	<p>災害に備えて一定の備蓄をしていたところですが、今般の新型コロナウイルスの感染拡大とマスク等の衛生資材の不足は想定を超えていたことから、早急にマスク等の衛生資材を確保し、市民の日常生活を支える医療機関、障がい者福祉施設、高齢者施設等に配布するとともに、災害に備えた備蓄を進めたところです。</p> <p>学校では、マスクの着用をはじめ、ソーシャルディスタンスの確保など、感染防止に努めています。</p> <p>さらに、国では、学校再開に伴う感染症対策と学習保障のため、最終学年を少人数編成するための職員の加配や、学習指導員の追加配置等を支援しており、市においてもその準備を進めているところです。</p> <p>なお、学校誘致については、人口減少や少子化の進展が見込まれる中、実施は考えていませんが、今後も学校における感染防止に努めてまいります。</p> <p style="text-align: right;">【その他】</p>

No.	市民意見	件数	意見に対する市の考え方
4	<p>「戦略 1-1 ゆとりある暮らしを感じるまちづくり」に (1) ～ (3) までであるが、まず、(1) として、「都心及び千葉県内主要都市までの通勤通学のための交通の利便性確保」という文言を入れてほしい。</p> <p>「若い世代定住」のためには、都心から 25 ～ 30 km という白井市の立地からすれば、当然、都心や船橋や松戸、柏等の主要都市へ通勤・通学する市民が多く居住し、もしくは住宅価格、賃貸料が手ごろということで移住を考える人も多い中で、現実問題として、交通の利便性が全く乏しいということをしかり受け止めて、対策を講じるのが急務であると思うからである。</p> <p>企業招致や工業団地への就労へつなげるのは、法人税などの市税の収益を考えてのことだろうが、10 年・20 年先の事とも思われ、今抱えている高齢化等の対策には非現実的だと思われる。</p>	1	<p>これまでの住民意識調査やタウンミーティングなどでのワークショップの結果を見ても、鉄道やバスといった公共交通の利便性の向上に対して、多くの市民から御意見をいただいております、市の大きな課題の一つと認識しています。</p> <p>通勤・通学をはじめ、買物、通院など生活の様々な場面において、公共交通に対する市民ニーズがあることから、素案の『戦略 3-3 拠点を結ぶまちづくり』では、まち全体の拠点間を移動しやすいよう、バス・鉄道・タクシーなど公共交通ネットワークの利便性の向上を進めることとしています。</p> <p>こうした取組を進め、公共交通機関それぞれの役割分担と連携のもと、持続可能で利便性の高い公共交通体系を確立することにより、広域的なネットワークの利便性向上が期待できるものと考えております。</p> <p style="text-align: right;">【参考】</p>

【3 後期基本計画 戦略2みどり活用プロジェクトに関する意見】

No.	市民意見	件数	意見に対する市の考え方
5	<p>農「地産地消」「かかわる農のまちづくり」では、学校の子どもに、白井の特産品の梨を提供してはどうか。</p> <p>いろいろな梨の種類を知ることは、ふるさと白井を学ぶ機会でもあると思う。</p>	1	<p>子ども達に特産品である梨を知ってもらうため、学校給食で梨を提供しているほか、学校ごとに梨農家での体験授業などを展開しているところです。</p> <p>御意見のとおり、梨を通じて白井を学ぶことは重要であると考えますので、今後もこれらの取組を継続するとともに、子ども達に梨をはじめとした農業に親しんでもらうため、素案の『戦略 2-1 「かかわる農」のまちづくり』では、農業体験などだれもが農に親しめる環境づくりを進めることとしています。</p> <p style="text-align: right;">【参考】</p>

No.	市民意見	件数	意見に対する市の考え方
6	<p>6次産業の活性化</p> <p>やはり白井と言えば「梨」だが、全国的な知名度はないように感じる。船橋などは産地としてメジャーとなっているが完全にその影に隠れてしまっている。是非白井の梨を全国区にさせていただきたいが、単に梨の生産高だけでアピールしてもなかなか消費者には響かない。梨をベースとしたスイーツ、ジュース、お酒など加工品の開発、販売をもっと促進し、白井に来なければ味わえない商品を次々と生み出せるよう、梨農園への6次産業支援を行うべきである。農家にとっても2次的な収入を得られることに繋がり、農業離れに歯止めをかける事が出来る。梨スイーツを提供するカフェなどが増えれば若い層にもアピール出来るし、そういった事業をはじめようと定住してくる人が増える事も期待できる。</p>	1	<p>現在、市内事業者により梨のジュース、ジャム、カステラ、梨粕万能たれなど、梨を活用した様々な商品が開発、販売されています。</p> <p>御意見にあるように、これらの取組を広げていくため、素案の『戦略 1-2 働く場を生み出すまちづくり』では、農商工や産学官の連携を支援することにより、新たな商品や技術の開発を促進することとしており、これらの取組を通じて、認知度の向上や市の活性化等につなげていきたいと考えています。</p> <p>【参考】</p>
7	<p>小学生への環境教育</p> <p>1年に1回の環境教育ではだめ。1年ごとに目的をもった環境教育を行う。</p> <p>学校生活の中で連続的に長い時間をかけて育てる。橋渡しをするインストラクターに手助けを受けるのも良い。</p> <p>たとえば、1年生はトマトを育て観察。2年生は動物の観察。3年生はジャガイモづくりから草むしり、虫集め、収穫、食べる。4年生は梨の剪定から収穫まで。</p> <p>たとえば、ゴミのない学校づくり。ゴミをださない工夫。木を植える運動。子供が自分の五感で自然とかかわり合い、自然から学び、自然を守ることを基本原則にする。</p>	1	<p>素案の『戦略 2-2 みどりを育み活かすまちづくり』では、白井の自然環境の豊かさを知り育むための環境学習を推進することとしています。</p> <p>なお、いただいた具体的な事業に関する御意見は、今後の事業の立案や実施の際の参考とさせていただきます。</p> <p>【参考】</p>
8	<p>ネイチャーセンター設立</p> <p>自然を学び触れる発信地をつくる。谷田の自然保護を目的に福祉センター内にネイチャーセンターを設立。ボランティアによる運営を基本とし、自然観察会、環境教育、草刈り、木道作りからさまざまな環境保全活動を通して環境教育を行う。</p>	1	<p>(仮称) 谷田・清戸市民の森については、今後、自然環境を損なわないよう環境調査を行うとともに、土地所有者等と整備方針や区域について協議を重ねていくこととしています。</p> <p>御意見のネイチャーセンターの設立は考えていませんが、素案の『戦略 2-2 みどりを育み活かすまちづくり』では、白井の豊かなみどりを守り、次世代に残すため、市民団体等と連携して、環境学習や環境保全活動に取り組むこととしています。</p> <p>【参考】</p>

No.	市民意見	件数	意見に対する市の考え方
9	<p>環境対策</p> <p>(1) 車の利用を減らす。カーシェアリングの拡大。不要な車は持たない。必要な時に使えるよう拠点を増やす。</p> <p>(2) 自転車の利用を増やす。各地区にステーションを設置。乗り捨て可能でどこに行くにも自転車が利用できるようにする。その為に、自転車専用道路を設置。車専用道路は今のままで維持整備のみ行い、逆に自転車専用道路をつくる。</p> <p>(3) ペットボトルをなくす。小売店での販売は全て使い捨てペットボトルからリユース可能なボトルに変更する。ヨーロッパでは行っている地区もある。白井市を発祥の地にする。</p> <p>(4) ゴミの削減。コンポストの拡大。ゴミを出さないことでコストも削減。上川町を参考にする。</p>	1	<p>(1)カーシェアリングについては、民間による取組が広がっているものと認識しています。</p> <p>(2)「都市マスタープラン」において、シェアサイクル等の導入や主要車道における自転車レーン設置を検討することとしています。</p> <p>(3)ペットボトルをはじめとするプラスチックごみが、ポイ捨てや適正な処理がされないまま海に流され、海洋汚染を引き起こすなど、世界的な課題となっています。</p> <p>小売店での取扱商品の変更は、市のみで行うことはできませんが、ごみの分別の徹底を促進し、プラスチックが適正に処理されるよう周知啓発するとともに、マイバックやマイボトルの利用を促進しているところです。</p> <p>(4)ごみの減量化・資源化に向けて、生ごみ処理容器等の購入費用の一部を助成し、その導入を促進しているところです。</p> <p style="text-align: right;">【その他】</p>
10	<p>自然保護</p> <p>(1) 川にメダカを戻す活動を実施。二重川、神崎川にメダカを復活させる。その為に専門家の協力とボランティアの協力で実施。</p> <p>(2) 植樹活動。常緑樹、落葉樹とも地域の自然にあった植樹を実施。次世代のために森を作る。森林率を向上させる。公園づくりから脱却して森づくりを行う。管理は森林インストラクター等の協力で実施。</p>	1	<p>(1)市民団体が二重川でメダカを復活させる活動を展開していますので、可能な範囲でその活動を支援しているところです。</p> <p>(2)新たな植樹活動は考えていませんが、森林の減少を抑制するため、地域対象民有林の違法伐採の防止に努めるとともに、所有者や市民団体などと連携・協力して、森林の適正な維持管理に努めてまいります。</p> <p style="text-align: right;">【その他】</p>
11	<p>「白井市バイオマスタウン構想」をより発展させ、自然エネルギーを市内で活用促進させてはどうか。</p> <p>「し尿処理場」のし尿は、資源である。また、堆肥を使ってカブトムシを増やし、カブトムシの森を作ってはどうか。</p> <p>遊休地を活用したオーガニック野菜を作る。公社を作って雇用を作るのもいいと思う。</p> <p>そして、白井市の学校給食をオーガニック給食にしてはどうか。</p> <p>食・農・教育・環境・雇用・エネルギーで循環社会を目指してはどうか。</p>	1	<p>「環境基本計画」では、望ましい環境像の一つに「限られた資源・エネルギーを大切にすまち」を掲げ、ごみ問題や資源・エネルギー問題の解決に向けて大量生産・大量消費・大量廃棄型の経済社会システムやライフスタイルを見直し、環境への負荷の少ない持続的発展が可能な社会の構築を目指しています。</p> <p>いただいた御意見は、資源循環型社会の構築に向けた貴重な御意見として承ります。</p> <p style="text-align: right;">【その他】</p>

No.	市民意見	件数	意見に対する市の考え方
12	<p style="text-align: center;">【意見全文は別紙】</p> <p>利便性だけであれば他の街でも享受できるが、白井に住めばあんな暮らしできる、白井に行けばこんな体験ができると認識させられるまちづくりを推進しなければならない。</p> <p>そこで大事になるのが白井が誇るものは何なのかを再認識する事とそれをベースに策を講じていくことと考える。</p> <p>そういった意味では基本計画の1つの柱である「みどり活用プロジェクト」は白井の魅力を活かす最適なプロジェクトだと思う。ただもちろん、みどりが豊かなまちは他にもあるので、単に自然を保全します、自然の大切さを啓蒙します、農業を支援し活性化させます、だけでは突出した魅力は打ち出せない。これらの取組をベースとしつつもひねりのきいた施策を新機軸として一つ加えることでより一層際立ったまちづくりを行えるのではないかと思う。</p> <p>そこで「市民と動植物との共生」をテーマに以下のようなことに取り組むことを提案する。</p> <p>【ペット先進都市への取組】</p> <p>ペットを飼育する人口は全国的に増えてきているものの日本は依然としてペット後進国である。故にこの分野に積極的に取り組んでいる自治体も皆無に等しい。そこで白井市がいち早くこの分野で手を挙げることで市のイメージを植え付けることができる。具体的には以下のような施策を講じてはどうかと思う。</p> <p>①みどりを活かした自然公園の開発とドッグランなどのペット施設の設置</p> <p>②ペット可飲食店、宿泊施設、店舗などの誘致によるペット特化型商業施設の開発</p> <p>③既存商業施設のペット対応義務化又は奨励化</p> <p>④市街、住宅街へのペットトイレ(ペットポスト)の設置</p> <p>⑤ペット飼育の認可制(ペット飼育免許)</p> <p>⑥公共交通機関のペット利用可</p> <p>⑦上記記載施設での譲渡会の定期開催(殺処分ゼロ化推進による市のイメージ向上)</p> <p>これらの施策に総合的に取り組むことにより白井市が豊かな暮らしが実現出来るまちとして認知されて、基本計画の3つの柱プロジェクトを成功させる事ができると思う。(「みどりを活用」して人が集まる「拠点を創造」し、その結果「若い世代の定住」を促進できる)</p>	1	<p>近年、心の癒やしや教育等の観点から、ペットの飼育志向が広がってきています。</p> <p>さらに、ペットは、人々の生活を様々な形で豊かにし、時には家族と同じように、かけがえのない存在になっています。</p> <p>一方で、散歩のマナーなどペットに起因する問題も生じており、人々がペットに対して抱く思いや意識は千差万別であることから、御意見のペット先進都市については、市民との丁寧な合意形成がないと実現できないものと考えています。</p> <p style="text-align: right;">【その他】</p>

No.	市民意見	件数	意見に対する市の考え方
13	<p>柏市の【カシニワ制度】を見習ってこれに準じた制度をぜひ構築してほしい。</p> <p>カシニワ制度とは使い道がなく放置された私有地（空き地）を有志の手により整備し、草木を植え、さらに一般公開することにより地域の活性化を図る取組である。</p> <p>荒れた土地を有効活用でき、同時に街の緑化、景観の美化、市民のコミュニケーションや癒しの場を提供できる一石二鳥の画期的な制度だと思う。</p> <p>白井市にも雑草が茂る空き地が多く見受けられ、時にはゴミが捨てられるなど問題になっている。</p> <p>使用されず空いている土地を無駄にせず、所有者にとっても市民にとっても有意義な活用をすべきだと思う。</p>	1	<p>カシニワ制度は、民間の空き地や林に花壇や広場、菜園等の必要な空間を生み出して、地域のみどりとして利用するものであり、みどりの保全・創出やコミュニティの醸成等の多様な効果を生み出すことができる先進事例と認識しておりますので、今後、調査研究してまいります。</p> <p>なお、私有地での取組ではありませんが、市では、公園や道路などの公共スペースにおいて、市民や市民団体が清掃、除草、花植えなどの活動を行うことを支援する「アダプトプログラム制度」を実施しているほか、素案の『戦略 2-2 みどりを育み活かすまちづくり』では、市民団体が道路沿いなどの身近なみどりを育て、ネットワークをつくる活動を支援することとしています。</p> <p style="text-align: right;">【参考】</p>
14	<p>市内では毎年春に有志による【オープンガーデン】が開催されている。</p> <p>オープンガーデンとは個人の庭を一定期間、一般の人に公開する催しである。</p> <p>毎年、子供から高齢者まで数百人の見学者が丹精された各個人庭を回り、楽しみとコミュニティの場を提供し、喜ばれている。</p> <p>近隣では流山市、柏市、市川市などが市を挙げてこれを全面的にバックアップしており、市外はもちろん県外からも多くの見学者が訪れる一大イベントとなっている。</p> <p>個人の庭を緑化し継続的に美しく管理することは、ひいては街の緑化、美化、活性、防犯、知名度UPにも繋がる。</p> <p>現在、コロナ禍の影響で家で過ごす人が増え、庭をキレイにしようと考えたりガーデニングに興味を持つ人が増えている。</p> <p>このイベントをさらに発展させるためにも白井市が支援してはどうか。</p>	1	<p>素案の『戦略 1-1 ゆとりある暮らしを感じるまちづくり』では、地域資源を活用した魅力ある暮らしを促進するため、市内の見所や文化資源、イベントなど様々な地域資源の情報発信を充実することとしています。</p> <p>具体的には、官民連携によるプラットフォーム（インターネットサイト）を構築し、様々な地域資源の情報を発信していく予定です。</p> <p>御意見のオープンガーデンについては、その情報をプラットフォームで広く発信することにより、その発展を支援していきたいと考えています。</p> <p style="text-align: right;">【参考】</p>

【4 後期基本計画 戦略3拠点創造プロジェクトに関する意見】

No.	市民意見	件数	意見に対する市の考え方
15	<p>政策の具体性が見えてこない。この計画全体的に言えるが、抽象的過ぎて主体性が見えてこない。福祉政策や多様性を重んずる文言はほとんどない。</p> <p>近隣市は基本構想でも、はっきりと高齢者・障害者福祉への姿勢、男女参画の推進、多文化共生、人権を重んずるといった趣旨を掲げている。</p>	1	<p>第5次総合計画の基本的な考え方は、あらゆる施策を網羅するのではなく、重点的に取り組む施策を選択と集中により明らかにすることです。</p> <p>そして、第5次総合計画を頂点として、その下に各分野の計画を位置付けることにより計画の体系化を進め、各計画が相互に整合・連動しながら、まちづくりを進めることとしています。</p> <p>第5次総合計画基本構想では、まちづくりの基本理念として「安心」、「健康」、「快適」の3つを掲げ、子どもから高齢者までのだれもが暮らしの安心が守られ、健康で活躍でき、自分らしく快適な生活を送ることができるまちづくりを目指しています。</p> <p>この基本理念は、年齢・性別・国籍等に関わらず、市のまちづくりに対する基本的な考え方であり、これを踏まえて、第5次総合計画及び各分野の計画を推進しているところです。</p> <p style="text-align: right;">【その他】</p>
16	<p>「戦略 3-2 地域拠点でつながる健康なまちづくり」に、「地域住民の連携と協力による見守り・・・中略・・・市民誰もが心身ともに健康で安心して暮らせる地域づくりを進めます。」や、「・・・日常生活における見守り・家事支援などの身近な生活サービスが提供される仕組みを作る」とあるが、対象者が漠然としており、あいまいで、少しも福祉都市としてのビジョンが見えてこない。</p> <p>また、「高齢者等（弱者）を地域で見守る」という表現はやはり健常者の立場からの、上から目線的に受け取られる。誰もが可能な限り地域で自立した生活、人生を送りたいのだから。</p> <p>例えば、このページに「高齢者が住み慣れた地域で生きがいを持ち、いきいきと暮らし、障がいのある人もない人も、個性を互いに認め合い、ともに暮らせる共生社会をめざし、誰もが暮らしやすい地域づくりの推進」という文言を入れると、住んでみたい！とイメージアップにもなると考える。</p>	1	<p>素案の『戦略 3-2 地域拠点でつながる健康なまちづくり』では、高齢化が進む中、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らすことができるよう、地域住民同士で訪問や電話による見守りやゴミ出しなどの家事支援を行う仕組みづくりを進めるなど、地域における助け合いや支え合いを促進することとしています。</p> <p>また、子どもから高齢者までのだれもが健康に暮らすことができるよう、身近な地域において、体操やスポーツなどライフステージに応じた健康づくりができる場を充実することとしています。</p> <p>これらの取組を通じて、地域のつながりやコミュニティを再生し、地域特性に応じた活力ある地域づくりを目指しています。</p> <p>さらに、市民・市民団体・事業者が「地域ぐるみで子どもや高齢者などの見守りを行う」など、それぞれができることを実践していただくことにより、より一層活力ある地域づくりにつなげていきたいと考えています。</p> <p style="text-align: right;">【参考】</p>

No.	市民意見	件数	意見に対する市の考え方
17	<p>「戦略 3-3 拠点を結ぶまちづくり」に「利便性の良い公共交通ネットワークの確保」とあるが、「新しい交通手段を見直す。」という意味の文言をつけていただきたい。(具体的な策は実施計画でと言われるかもしれないが、)オンデマンドバスやタクシーの新しいシステムを取り入れるなどの策を講じてほしい。</p> <p>でなければ、人の流れはなくなり、街はうっ血して死んでしまう。</p> <p>現にナッシー号は改悪され、利用の機会すらなくなっている。</p> <p>自家用車ありきのまちづくりでは高齢者は運転免許返上もできず、社会問題になっている、高齢者による交通事故はあとを絶たない。</p> <p>このことは西白井複合センターのタウンミーティングがある都度、住民の皆さんが口々に死活問題だと言っていたのにもかかわらず、策を講じている姿勢が全く見られないと思われても仕方ない。</p>	1	<p>これまでの住民意識調査やタウンミーティングなどでのワークショップの結果を見ても、鉄道やバスといった公共交通の利便性の向上に対して、多くの市民から御意見をいただいております。市の大きな課題の一つと認識しています。</p> <p>そこで、素案の『戦略 3-3 拠点を結ぶまちづくり』では、拠点間を移動しやすいよう、バス・鉄道・タクシーなど公共交通ネットワークの利便性の向上を進めることとしています。</p> <p>一方で、公共交通を取り巻く環境は、人口減少や少子化・高齢化の進展、自家用車への依存、新型コロナウイルス感染症の拡大などにより利用者が減少しており、サービスの縮小や低下、公共交通の維持・確保が社会的に大きな課題となっています。</p>
18	<p>公共交通手段は市民活動の「血液」であり、重要なものであると考える。</p> <p>しかしながら、白井市及び千葉ニュータウンは路線バスの本数や経路が貧弱で、高齢者や障がい者にとって使いづらいとの声が聞かれている。そのことが、白井市の日中人口の多くを占める高齢者や、白井市に問題意識と改善意欲を持っている障がい者の活動を妨げ、白井市の活気を失わせている可能性があり、さらに運転不適格高齢者による交通事故の原因にもなる。</p> <p>また、それ以外の主婦層、若年層においては、自動車や自転車などの独自の交通手段を持つため、これ以上の利用を促すことは難しいと考える。</p> <p>このような状況において「公共交通機関の利用に努める」ように市民に促しても、利用率の向上につながらないと思われ、運行事業者の経営状況の改善につながらず悪循環であると考え。そのため、もっと別の具体的な利用促進案を考える必要がある。</p> <p>一方で、物流の分野において需要が急増する宅配や、主流となりつつある地場の農産物流通では、「ラストワンマイル」の安価な輸送手段の不足が喫緊の課題であり、公共交通機関を輸送手段として考えた場合、一方は需要の過多、一方は需要の低迷がありアンバランスである。</p> <p>そこで、双方を同一の輸送機関で担う「貨客混載」を提案したい。これにより、市内の郵便、</p>	1	<p>このことから、公共交通機関それぞれの役割分担と連携のもとで、持続可能で利便性の高い公共交通体系を確立できるよう、「地域公共交通網形成計画」に基づき、各種取組を進めることとしています。</p> <p>この計画では、社会情勢の変化に対応するためには、既存の交通システムに捉われない効率的な仕組み等を考え続けていくことが必要であることから、他市における取組や先進事例等を継続的に調査・研究し、地区の特性に応じた新たな解決策について模索することとしています。</p> <p>なお、新たな交通システムについては、どの運行形態も一長一短な特徴があり、地域の実態に即していないと、逆に利用者の減少を招いてしまったり、コストだけが増大してしまったりという事例があると聞き及んでいますので、導入にあたっては、真に市に適した交通サービスであるか、そのサービスが将来まで持続可能なものであるかなどを十分精査した上で、附属機関等での検討を踏まえ、柔軟に対応してまいりたいと考えています。</p> <p>いただいた御意見は、今後の検討の参考とさせていただきます。</p> <p style="text-align: right;">【参考】</p>

	<p>宅配などの事業者から輸送代行費を回収することができ、また地域農産物を素早く安価に、かつ「冷房車」で流通することができるので、公共交通機関の経営状況改善とともに、市民の健康増進や市内農業の活性化にもつながる。</p> <p>また、以上の方法を実現するにあたり、「デマンドバス」という形態も実現しやすくなるので、市民の足の利便性向上にもつながる。</p> <p>この場合、各地区などにバス停を兼ねた「集荷場」が必要となるが、それらは駅や市役所などの公共施設はもとよりコンビニ、飲食店などの店舗、市民農園や観光農園など貨客双方に需要があるスポットになるため、輸送効率と街の活性化の双方に資すると考える。</p>	
19	<p>企業誘致には、マスクや手袋、ガウン、消毒液などの医療材料工場はどうか。</p> <p>感染症対策で住民の健康、暮らしを守るためにも、衛生材料工場を誘致して、白井市自ら備蓄をしてほしい。近隣の医療機関や福祉施設、公共施設や一般家庭でも必要である。今回の教訓は、海外に依存してきたつけが、パンデミックで、流通が滞った事が医療材料の不足を生んだ。</p> <p>食料の自給率の低さも大問題である。食料不足が深刻化する前に白井市独自の自給自足ができ、再生可能な循環型社会を作る事が必見と考える。</p>	<p>1</p> <p>企業誘致については、地域経済の活性化を図るため、多様な業種を誘致していくこととしていますが、今般の新型コロナウイルスの感染拡大という緊急事態においては、事業者の協力が不可欠であり、現に多くの市内事業者等からマスク、消毒液などの衛生資材を寄付いただき、医療機関や高齢者施設、保育所等で有効に活用させていただいていたところです。</p> <p>今後も、事業者と連携しながら、市民の安全・安心の確保に努めてまいりたいと考えています。</p> <p>また、食料自給率の低さは、全国的な課題であり、国と地方自治体がそれぞれの役割に基づいて取り組むべき問題と認識しています。</p> <p>素案の『戦略 2-1「かかわれる農」のまちづくり』では、担い手の育成や農地の集積など、農業を積極的に支援していくこととしています。</p> <p>【その他】</p>

【5 その他】

No.	市民意見	件数	意見に対する市の考え方
20	<p>今後、様々なパブリックコメント募集のお知らせは、市のホームページのトップのお知らせ欄に掲載していただくと、気が付きやすいと思われます。</p>	1	<p>御意見ありがとうございます。今後のホームページへの掲載の際の参考とさせていただきます。</p> <p>【参考】</p>

コロナ禍を経てテレワーク主体の働き方が急速に浸透し、所謂「都心」に住むメリットが半減してきている。一方で商業の中心が依然として都市部である事から、住環境としては都市部へのアクセスの良さが一つのメリットとなってきている。

この状況下において白井市は今こそ魅力的なまちづくりを推進し、人を呼び集めるチャンスだと考える。

とはいえ、単に利便性や公共性を高めるだけの施策を講じても他の自治体との差が出にくく、結局元々利便性の高い街(近辺で言えば船橋や柏など)に人口も人の流れも集中してしまうことになる。

その傾向を少しでも変えるには他の自治体がまだ取り組んでいないことや白井にしか出来ない独自の取組を実施する必要がある。

利便性だけであれば他の街でも享受できるが、白井に住めばあんな暮らしできる、白井に行けばこんな体験ができると認識させられるまちづくりを推進しなければならない。

そこで大事になるのが白井が誇るものは何なのかを再認識する事とそれをベースに策を講じていくことと考える。

そういった意味では基本計画の1つの柱である「みどり活用プロジェクト」は白井の魅力を活かす最適なプロジェクトだと思う。ただもちろんみどりが豊かなまちは他にもあるので、単に自然を保全します、自然の大切さを啓蒙します、農業を支援し活性化させます、だけでは突出した魅力は打ち出せない。これらの取組をベースとしつつもひねりのきいた施策を新機軸として一つ加えることでより一層際立ったまちづくりを行えるのではないかと思う。

そこで提案したいのが、「市民と動植物との共生」をテーマに以下のようなこと取り組む事である。

1. ペット先進都市への取り組み

ペットを飼育する人口は全国的に増えてきているものの日本は依然としてペット後進国である。故にこの分野に積極的に取り組んでいる自治体も皆無に等しい。そこで白井市がいち早くこの分野で手を挙げることで市のイメージを植え付けることができる。具体的には以下のような施策を講じてはどうかと思う。

- ① みどりを活かした自然公園の開発とドッグランなどのペット施設の設置
- ② ペット可飲食店、宿泊施設、店舗などの誘致によるペット特化型商業施設の開発
- ③ 既存商業施設のペット対応義務化又は奨励化
- ④ 市街、住宅街へのペットトイレ(ペットポスト)の設置
- ⑤ ペット飼育の認可制(ペット飼育免許)
- ⑥ 公共交通機関のペット利用可
- ⑦ 上記記載施設での譲渡会の定期開催(殺処分ゼロ化推進による市のイメージ向上)

都心に住む人が諦めることの一つにペットの飼育がある。最近ではペット可のマンションも増えているが、他住民とのトラブルも絶えない。まち全体がペットを推奨する事で理解のあるコミュニティを形成するとともにペットが苦手な人にも配慮した施策により全ての市民が快適に生活できる基盤を構築する。

みどりの多い郊外という特徴を活かし自然を満喫できる公園を多く点在させ、そこにペット用施設を設置する事で人の流れを作り出す(上記①)。現在の日本はペット同伴が許されない施設が多く、ペットを飼育する人の行動が限られる。一方でペットのためならお金を使う事を躊躇しない事が多く、ペット飼育者をターゲットにする事で経済を活性化する事ができる(上記②、③)。

一方、動物が好きでない人の視点から見ると飼育者のマナーが気になるが、ペット先進国であるヨーロッパに倣ってマナー向上を図り、ペットに対する不快感をなくす(上記④、⑤)。また、どこよりも先駆けて上記⑥に取り組んだり、この取組と合わせて⑦なども動物番組などテレビのメディアに露出させる事で白井市のイメージ向上を図る。

これらの施策に総合的に取り組むことにより白井市が豊かな暮らしが実現出来るまちとして認知されて、基本計画の3つの柱プロジェクトを成功させる事ができると思う。(「みどりを活用」して人が集まる「拠点を創造」し、その結果「若い世代の定住」を促進できる)